

最優秀賞

「母の存在」

静岡県 及川 さくらさん 高校1年生

私に父はいません。母と弟と私、いわゆる母子家庭です。しかし今までの中で何不自由なく生きてきました。今も私立の高校に通わせてもらいながら部活動もやっています。これは全て母のおかげです。夏休みになればプールにつれていってくれるし、行事にはすべて来てくれます。

私に夢を与えてくれたのも母でした。母は看護師をしています。私は仕事をする母を初めて見た時、患者さんに対して笑顔で優しく接していたり、難しそうなお機械を使いこなす母がとてもしっかり見えました。それから私は母のような看護師を目指すようになり、今も夢に向けて勉強を続けています。

このように、私の中での母はとても大きい存在です。母の子じゃなかったら出来ない事もたくさんあったし、この夢も持っていなかったのではないかなと思います。母の子で本当に良かったです。辛い事があったとしても母とだったら乗り越え

れると私は思っています。この感謝の気持ちは日頃の生活の中でなかなか言う機会がないので母のためにも自分の夢を叶えて、恩を返していけたらと考えています。

そして、食費を少しでも減らせるようにと庭で育てている野菜を届けてくれる祖母、たくさん実ったからおすそわけと言って野菜や果物を持ってきてくれる地域の方々にも感謝しています。私たち家族はこうした方々に支えられています。これはとても幸せな事だと日々感じます。

お父さんがいないからかわいそうというのは違います。私は今の生活がとても楽しくて幸せです。この気持ちが伝われば良いなと思います。そして私を幸せに育ててくれる母にいつもは恥ずかしいけど言いたいです。

「お母さん、ありがとう」

審査員のコメント

●筆者が母の素晴らしさを余すところなく語っている感動的な作文です。将来は母親のように看護師になりたいという夢を抱きながら、前向きに歩んでいる筆者の生き方に心打たれました。父がいなくてかわいそうとは違う。今の生活が楽しいのはこの母のおかげという文章に、同じく母子家庭で育った評者も涙しながら、思わず落涙しました。素敵な文章をありがとう。(内田先生) ●母子家庭をハンデに感じず、母親の背中を見ながら頑張っている姿がよく書かれています。この元気の源は祖父、祖母を含めた家族のまとまりです。(明石先生)

優秀賞 「手抜き之母」

千葉県 小島 桃花さん 中学3年生

「お母さん、月曜日と金曜日は手抜きだよね。」
私の言葉に、母ははっとして

「そうかも。手抜きだけど、おいしいでしょう。」
負けじと母が笑顔で返した。

母は私より早く出て、七時くらいに帰ってくる。そのうえ、月曜日は私たちの習い事の送り迎えが多い日なので、前日にほぼ仕込みができている食事だ。金曜日はお刺身が出ることも多い。母が夕食を作るのは大体ごはんがたける三十分未満。料理をしながら妹の話も聞いている。

「今日も手抜きだけど、桃花の好きなものよ。」
と熱々のチーズ焼きが出てきた。みんなが好きなメニューだ。

九時が過ぎると妹が寝るので、母はまた台所に立って明日の下準備を始める。手抜きと見える食事実は前準備があるのだ。手抜きというよりは、時間の工面といったところか。

お母さん今日も早くて、おいしいです。ありがとう。

審査員のコメント

●忙しい母は月曜日と金曜日は手抜きになる。前日に準備しておいたものやスーパーで買ったお刺身、ときには熱々のチーズ焼きも。筆者や妹にとって、いくら手抜きの料理でも、母親の愛情がいっぱい詰まった美味しい食事。「今日も早くて、おいしいです」と母親への感謝の言葉が嬉しい、読ませる文章ですね。(内田先生) ●直接にはそれを見せていなくとも、心の中では母親に対して感謝していることが自然な文章で描かれている。(坂元先生)



優秀賞 「母のぬくもり」

静岡県 長久 望美さん 高校1年生

私は母が大好きだ。心の底からそう言える自信がある。母は私のことをとてもよく考えてくれる。私が不安ばかりで、どうしようもない時には手を握って、「大丈夫だから。そばにいるよ。」とずっと言ってくれる。私はあの母のぬくもりが大好きだ。なぜかは分からないが、あの優しい手

を握ると安心する。母親というものは、皆こんな手をしているのだろうかと思う。でも、きっと違う。手のぬくもりはそれぞれで、私の母は、私の母にしか持っていないぬくもりを持っている。母親というものは、いてくれるだけで心が落ち着く存在なのだと、私は確信を持って言える。

審査員のコメント

●子供が子守唄を聞きながら、お母さんに添え寝をしてもらっているようなやすらぎとぬくもりを感じ、それがまた見事な“信頼”と“絆”の表現の歌となっています。(橋本先生) ●短い文ですが、リズムがあります。主張が明確です。母と娘の絆が手のぬくもりから伝わってきます。絆を交わす二人の会話でなく、握った手の温かさで実感しています。(明石先生)

優秀賞 「障害者の家族を持って」

静岡県 田代 佳瑛さん 高校1年生

私には障害者の弟がいる。身体ではなく、脳の障害なので、会話もあまりすることができないし、自分のことも一人ではできない。そのため、弟に強く当たったり、親や妹、弟との心の衝突もあった。一時期は、「障害者の弟なんて生まれてこなければ良かったのに。どうして母は弟を産んでしまったのだろう。」と考えるときもあった。だが、私の両親は毎日、精一杯、弟の面倒を見て、そしてたくさんの愛情を注いでいるのだ。

その時、私は、改めて弟も大切な家族の一員であることに気づかされた。さらに、家族で支え合うことの大切さを学んだ。私に大切なことを教えてくれた弟に今では感謝の気持ちでいっぱいだ。生まれてきてくれてありがとう。「将来は、医療関係の仕事に就いて、弟の病気を治してみせるから一緒に頑張っていこうね。」まだ、一度も呼ばれたことがないお姉ちゃんという呼ばれ方をする日が来ることを信じて・・・。

審査員のコメント

●まさに、子供が親や家族を育てることを実証しています。それを、あたかもドラマを見ているような文章の構成で、最後の1行への盛り上がりか何とも感動的です。(橋本先生) ●両親の姿を見て、自らも困難を乗り越えていこうとする様子が描かれている。最後の一文は、実に心に迫る表現である。(坂元先生)

優秀賞 「父さんへ」

茨城県 大山 藍さん 高校1年生

思わず、「気持ち悪いよ」といってしまってごめんなさい。本当は、「ありがとう」って言いたかったのに照れくさくて、自分をごまかしてしまいました。

五月の連休に、家族みんなで大掃除をしたことがあったでしょ。あの時、父さんは、押入れの奥で、ぼろぼろの手紙を読みながら目を潤ませていたよね。それは、汚い字だったけど、ひと目で私が小さい時に書いたものだとわかりました。「父さんの宝物なんだよ」と言われて、すご

く嬉しかったのに、周りを気にして、ひどい言葉を言ってしまって、ずっと心にひっかかっていた。

小さい頃は、父さんと一緒に保育園に通っていて、迎えが遅い父さんをいつも怒っていたように覚えています。でも、行き帰りの車の中は、二人だけの大切な時間だったよね。いろんな話をしてとても楽しい時間でした。

今年は、父さんの五十歳の誕生日、新しい手紙を送ります。「ありがとう」を添えて。

審査員のコメント

●思春期の心の葛藤がうまく表現できています。本当の気持ちを素直に言えないのが思春期です。その壁を乗り越え、父親の50歳の誕生日に、「ありがとう」という手紙を送れるまで成長しています。(明石先生) ●照れくさくてつい言ってしまった言葉も、父さんはきっとわかってくれているよ。新しい手紙がまた宝物になりますね。(松田先生)

優秀賞 「お母さん大好き」

山口県 酒井 ひなのさん 中学2年生

家族で夕食を食べながら、テレビを見ていた時の出来事。

母と姉は少しケンカぎみで、家族の空気はあまりよくありませんでした。

無言でテレビを見ていると、テレビの中の子役の子が、お母さんに向かって、「お母さん大好き。お母さん大好き。」と、とても笑顔で言っていました。

それを見た私は、何だか真似をしたくなって、子役の子と同じように、

「お母さん大好き。お母さん大好き。」と笑顔で言いました。

すると、母と姉は大爆笑。普段、大好きなんて言わない私が突然言い出したので、よほど面白かったそうです。

いつの間にか、母と姉は仲良く話しており、姉と私は、何度も「お母さん大好き。お母さん大好き。」と言い、皆笑顔で夕食を食べ終わることが、できました。

審査員のコメント

●何と微笑ましい、あったかい雰囲気が見事にしています。それは、恥じらいを超えての、子供のような、あなたの「お母さん大好き!」の名演技のおかげですね。(橋本先生) ●空気を変えるあなたのアクション、お母さんも嬉しかったでしょう。あたたかい夕食のシーンが目につきました。(松田先生)